

地域で子育て見守りたい

市民協働研究会委員 岩根佐代子

現状と課題

少子化対策が叫ばれる昨今、子育て支援策は多彩に繰り広げられている。ファミリーサポートや保育園の一時預かり、病後児保育など保育サービスが手厚く整備されてきた。また、子育て支援センターが中心となりつどいの広場が開設され、その中から支援センターのサポートを受け育児サークルが自主的に運営されてきている。民間団体によるサロンのような場所や親子リズムなどのサークルも活発である。このようなサービスや場所に積極的に出かけ利用している人は、子育ての息抜きができ、親子とも心も身体も健康に成長されることだろう。しかし、多様な支援策をどう利用してよいのか戸惑う人や、家庭から一步外へ出られず、不安を抱えている人も一方ではいるのではないかと思う。ドアノッキングと言われる事業がある。乳幼児を育てている家庭を訪問し、子育ての情報を届けたり話し相手になったりするのである。こういった制度を導入することで、一人ぼっちの子育て『孤育て』ではなく『子育て』を楽しいものと感じていただきたい。

地域住民も市役所職員も共に子育て家庭を支え、子どもを見守り育てる土壌を作り、学齢期になり成人するまで複数の人が子どもの成長に心を向ける地域づくりをしていきたいと願う。

そこで、地域住民、市役所職員の協働による子育てサポートプランをシュミレーションしてみた。

協働で行なう「地域で子育て見守りプラン」(案)

step1 自治会単位で「子育て見守り隊」(仮称)地域住民を巻き込み組織する。

(市役所のコーディネートが大きな力となる)

step2 「子育て見守り隊」養成講座を開催

(定期的にスキルアップを図る講座を開催
講座の企画運営は民間団体が担ってもよいのでは)

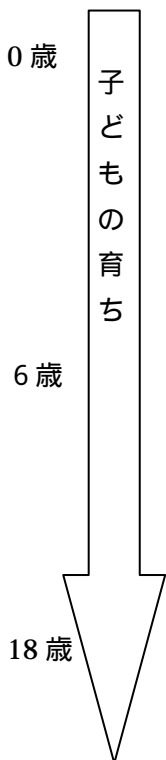
step3 「子育て見守り隊」地域デビュー

(保健センターが行なう出産家庭の家庭訪問に同行し、サポーターとしてその家庭とお付き合い開始。定期的に両者の負担にならない程度に訪問し、子育て情報を届けたり、話し相手になったりする。3才くらいまで継続。
問題が起きたときは、保健センターや子育て支援センター、保育園または短大などに相談し、助言を仰ぐ。)

Step4 学齢期以上の子どもたちの見守りはスクールパトロールとの連携を図る。

(転入児や在日外国人の子どもたちの様子を学校と連絡を取り状況把握をする。特に校区外の学校へ通うしょうがいを持った子ども達の放課後の居場所、地域での居場所ができるようそのサポートに入りたい。)

Srep5 子どもが成人するまで地域で見守る。



まとめ

これはあくまでもシュミレーションであるが、子どもが成人するまで地域の中で複数の人たちの手によって育てていきたいと願う。

プライバシーなど個人を重んじる風潮が強い現代、個人の努力だけではただのおせっかいというだけに終わってしまう。行政が加わることで組織化され、コーディネート機能が働き、トラブルの回避や子どもや親に問題が起こったときの対応がスムーズに行なわれることだろう。また、地域住民の自分の住む町でのきめ細かい心遣いは大きな力となり、加えて、民間団体が培ってきたノウハウをいかしていくことで、三位一体の協働事業は大きな効果が期待できる。しかし、協働事業を実践していくには乗り越えなければならない多くの問題点を抱えている。まずは、関わる人々がお互いの立場を理解し、尊重しあうこと。無理することなく自己実現ができていくことが大切ではないだろうか。

「育児力」は「地域力」とも言われる。人に優しいまちづくりをめざして、地域力UPを図っていききたい。